

## ◎大学スポーツ合宿誘致PR活動における大学生アンケート分析 <12月15日現在>

### ○概要

- ・京阪神の大学のクラブに「スポーツ合宿についてのアンケート」(p8)を実施、347件の回答を得た。
- ・毎年の合宿地が決まっているクラブとそうでないクラブはほぼ同数。
- ・決まっていないクラブの合宿地決定方法で最も多いのは「旅行代理店」、その際に優先するのは「費用」や「競技施設」。
- ・中丹地域の関心度について、半数近くが「関心をもった」と回答。
- ・中丹地域における今後の合宿を検討する可能性について、約1/3が50%以上と回答。

### ○詳細

今回の大学生アンケート調査は、これからの中丹地域にスポーツ合宿を積極的に誘致する上で準備すべき必要なことを整理するために行っております。そのためには、できるだけ多くの信頼できる情報が求められますので、現在は中丹地域の代表として、京阪神の主な大学と大学生との信頼関係を構築するところから始めております。全面的・部分的に協力していただける大学やクラブ、今回は協力していただけない大学やクラブなどありますが、利用する現役大学クラブの声が現時点で347件(配布数775件、回収率44.8%)集まりましたので、これからの大学スポーツ合宿誘致準備資料としてご活用ください。

毎年の合宿地が「決まっていない」は189件(54%)あり、「決まっている」は158件(46%)とほぼ同数の割合になっており、誘致活動できる対象の大学スポーツクラブが存在していることがわかる。

189件の「決まっていない」クラブの合宿地決定方法の1位「旅行代理店」は69件(31%)あり、学生やクラブのことを知っている特定の代理店に毎年依頼していることが伺える。「インターネット」は2位の45件(20%)で、学生自ら候補地を探している様子が見える。「指導者」「友人・知人」は、29件(13%) 28件(13%)あり、学生にとって身近な存在の方からの口コミを重視している傾向が見える。

合宿地を決める時の優先事項は、「費用」が230件(27%)で1位、2位は「競技施設」203件(24%)となっており、大学生の台所事情が、競技クラブの練習事情に影響を大きく与えていることがわかる。また、3位の「宿泊施設」は147件(17%)あり、宿泊施設の食事や部屋などのサービス面、費用面等に関心が高くなっている一方、交通アクセス102件(12%)、地域95件(11%)は4位、5位になっている。

ガイドブックを通した中丹地域の関心度は、「関心をもった」が147件(42%)あり、最も多くなっているが、113件(33%)は「あまり関心がない」、58件(17%)は「特になし」が全体の半数に及ぶという厳しい結果になっている。

また、中丹地域における今後の合宿の検討の可能性は、25%と0%を併せると207件（60%）にものぼり、こちらも厳しい結果となっている反面、50%以上は121件（35%）あるため、新たに誘致できる対象が存在しており、アプローチ次第では結果に繋がる可能性がある。

現時点の結果として、大学スポーツ合宿の誘致に取り組む対象が多数存在していることがわかった。しかし、この対象が中丹地域に関心を持ち続けてもらうためには、新たな取り組みを早急に行わないといけないし、他地域に関心を奪われるかもしれない。そのためには、合宿誘致で先行する他都市の施設運営や宿泊業者の取り組みを学びながら、大きな枠組みで中丹地域の独自色(魅力)を決定、実行する必要がある。実行趣旨に沿った活動を地域全体で各々が一歩ずつ前向きに取り組む、少しずつ情報発信し続けていく必要がある。

以 上